

フランツ・リストと聖エリザベト ー第1部、フランツ・リスト、その2ー

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル 栗 博志・高田 昌実・萩原 隆二
田島 紘己
鹿児島大学 名誉教授 納 光弘
加治木温泉病院 夏越 祥次
県立大島病院 栗 隆志

[はじめに]

ここでは、リストの少年期、および生涯に亘る慈善行為の他、ロマン派の音楽に関する若干のエピソードなども述べる。

[第二章：リストの少年期と、その後の生涯に亘る慈善行為など]

[1] リストの少年期とベートーヴェン

リスト (1811-1886, 75歳没) は、ハンガリーのエステルハージ侯爵領のドボルヤーン (現在のオーストリアのライディング) に生まれた。

侯爵領のアイゼンシュタットの宮廷楽団では、かつてハイドンが楽長 (1766-1790) を務めていた。

ドボルヤーンからウィーンまでは、わずか70-80kmである。

歴史に名を残す音楽家は、ほぼ例外なく幼少期より天才、神童と言われているが、1821年には神童リストの驚嘆すべき才能は知れわたり、ハンガリーの6人の貴族が、奨学金を出す事を決定した。

1822年、家族はウィーンに引っ越した。

リストは、ピアノをチェルニー (ベートーヴェン、フンメル、クレメンティの弟子) に学び、更に神聖ローマ皇帝、兼オーストリア皇帝であるハプスブルク家の宮廷楽長で、ウィーン音楽界の重鎮のサリエリ (ベートーヴェン、シューベルト、チェルニー、マイアベーアらの師) に通奏低音 (figured bass basso continuo: バロック音楽では通常、バス声部の旋律のみ

を提示。それに奏者が即興的に和音を付けて演奏する)、譜読み、歌唱法、作曲等の音楽理論を学んだ。

リストに欠けていたのは、幼少期からの学校教育であった。彼は長ずると、それらをサロンを主催する女性作家達や、多種の芸術家達との交流、読書などで克服した。

二人の英才教育で、リストは短期間に長足の進歩を遂げた。

1819年、作曲家で出版業者のディアベリは、自作のワルツの主題による変奏曲を、ウィーンとオーストリアの作曲家に公募し、50人の作曲家による大変奏曲集を作った (図11)。

チェルニー、モーツァルト (息子)、シューベルト、フンメル、モシュレス、カルクブレナーらにまじり、11歳のリスト少年の作品も収められた。これは、50人の52変奏にチェルニーのコーダを含む大曲となった。

ベートーヴェンも依頼されたが拒否。然し後年、別に性格変奏を極めた33の変奏曲を書いた。バッハの「ゴールドベルグ変奏曲」に習い、第33変奏は、メヌエットで終る。

1823年4月13日、12歳のリストは、ウィーンの小口ドウテンザールで演奏会を開き、フンメルの「ピアノ協奏曲第3番」、モシュレスの「ピアノとオーケストラのための変奏曲」などを演奏し、聴衆を驚嘆させた。

図12は、リストのコンサート・デビュー50周年記念の1873年の石版画の部分で、演奏会

VATERLÄNDISCHER KUNSTLER-VEREIN
VERÄNDERUNGEN
für das
Piano-Forte
über das Original
ESCH
zusammengestellt von den vorzüglichsten
Composern UND Virtuosen
WIEN'S
und der k. k. österreichischen Staaten

Seite 1
1. ABTHEILUNG:
LUDWIG VAN BEETHOVEN (1770—1827)
33 Variationen
über einen Walzer von Diabelli, op. 120

Thema
Variation 1: Alla Marcia maestoso
Variation 2: Poco Allegro
Variation 3: L'istesso tempo
Variation 4: Un poco più vivace
Variation 5: Allegro vivace
Variation 6: Allegro ma non troppo e serioso
Variation 7: Un poco più Allegro
Variation 8: Poco vivace
Variation 9: Allegro pesante e risoluto
Variation 10: Presto
Variation 11: Allegretto
Variation 12: Un poco più mosso
Variation 13: Vivace
Variation 14: Grave e maestoso
Variation 15: Presto scherzando
Variation 16: Allegro
Variation 17: Moderato
Variation 18: Presto
Variation 19: Andante
Variation 20: Andante

Seite 2
Variation 21: Allegro con brio — Meno Allegro —
Tempo I — Meno Allegro
Variation 22: Molto Allegro — Alla „Notte e giorno
fatica“ di Mozart
Variation 23: Assai Allegro
Variation 24: Fughetta Andante
Variation 25: Allegro
Variation 26: Allegro
Variation 27: Vivace

Variation 28: Allegro
Variation 29: Adagio, ma non troppo
Variation 30: Andante, sempre cantabile
Variation 31: Largo, molto espressivo
Variation 32: Fuga, Allegro
Variation 33: Tempo di Menuetto
(ma non tirarsi dietro)

(Der Aufnahme liegt die Wiener Urtextausgabe zugrunde)

Seite 3
2. ABTHEILUNG
Thema
Variation 1: Ignaz Ansmayer
Variation 2: Carl Maria von Buchler
Variation 3: Leopold Eustache Czapek
Variation 4: Carl Czerny
Variation 5: Joseph Czerny
Variation 6: Moritz Graf von Dietrichstein
Variation 7: Joseph Drechsler
Variation 8: Emanuel Aloys Förster
Variation 9: Franz Jakob Freystädter

Seite 4
Variation 10: Johann Baptist Gansbacher
Variation 11: Josef Abbt Gelinek
Variation 12: Anton Halm
Variation 13: Joachim Hoffmann
Variation 14: Johann Horzalka
Variation 15: Joseph Huglmann
Variation 16: Johann Nepomuk Hummel
Variation 17: Anton Hüttenbrenner
Variation 18: Friedrich Michael Kalkbrenner
Variation 19: Friedrich August Kanne
Variation 20: Joseph Kerzkowsky
Variation 21: Conradin Kreutzer
Variation 22: Heinrich Eduard Josef Freiherr
von Lannoy
Variation 23: Maximilian Joseph Leidesdorf

Seite 5
Variation 24: Franz Liszt
Variation 25: Joseph Mayeder
Variation 26: Ignaz Moscheles
Variation 27: Ignaz Franz Edler von Mosel
Variation 28: Wolfgang Amadeus Mozart (Rit.)
Variation 29: Joseph Panny
Variation 30: Hieronymus Payer
Variation 31: Johann Peter Piss
Variation 32: Wenzel Plachy
Variation 33: Gottfried Rieger
Variation 34: Gottfried Rieger
Variation 35: Philipp Jacob Rietze
Variation 36: Franz de Paula Roser von Reiter
Variation 37: Johann Baptist Schenk
Variation 38: Franz Schubert
Variation 39: Simon Sechter
Variation 40: S. R. D. - Serenissimus Rudolphus Dux
Variation 41: Maximilian Abbt Stadler
Variation 42: Joseph de Sclay
Variation 43: Wenzel Johann Tomashek
Variation 44: Michael Umlauf
Variation 45: Friedrich Dionysius Weber
Variation 46: Franz Weber
Variation 47: Charles Angéles de Winkler
Variation 48: Franz Weiss
Variation 49: Johann Nepomuk August Wittasek
Variation 50: Jan Hugo Worzidek
Coda : Carl Czerny

Seite 6
Variation 51: Rudolf Buchbinder, Klavier
(STEINWAY-Flügel)

図11 ディアベリのワルツの主題による変奏曲
ベートーヴェンの33変奏と50人の作曲家の52変奏とチェルニーのコード (壮大)
(LP, TELEFUNKEN, SMA2508-T P 1973)



図12 1823年のヴィーンでの12歳のリストの演奏会
有名なベートーヴェンのWeihekuß

場でベートーヴェンが、リストの額にキスした (Weihekuß) という有名な場面である。

後年、リストによれば、事実は演奏会前日に、ベートーヴェンの無給秘書のシンドラーに伴われたリスト親子が、ベートーヴェン宅を訪れ (この事は、会話帖に記載あり)、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番の第一楽章、バッハの編曲の演奏後の事だと言う。

チェルニーやシンドラーによれば、1817-1818年には、ベートーヴェンは聴覚をほぼ喪失し、ラッパ型集音器 (図13) でも、会話はほぼ不能で、筆談だったとの事である。

それでも、ベートーヴェンは、1822年には、



図13 ベートーヴェンの集音器
(ヴィーン楽友協会蔵)
(平野 昭著「ベートーヴェン」新潮文庫, 昭和60年)

ピアノ・ソナタ第31, 32番, 23年には「ディアベリのワルツの主題による33の変奏曲」「荘厳ミサ曲」, 24年には「交響曲第9番」を、たて続けに書いている。

シンドラは、1864年に筆談用会話帖(137冊)をベルリン王立図書館に売却した。

[2] ドイツ・ロマン主義

12歳のリストは、前記のようにデビュー演奏会で、フンメルのパiano協奏曲を演奏したが、フンメル2, 3番(1821年出版)は、ロマン派音楽の原型とも言われ、特に3番は爛熟した華麗な曲である。

更に緩徐楽章の第2楽章は、ホルンの合奏で始まり、その響きは、田園やそこに広がる森を連想させるような、牧歌的ロマンを漂わせ、後半のピアノは小川のせせらぎを感じさせる。12歳のリストのこの曲の演奏の記憶が、後年の「エステ荘の噴水, 1877」を作曲させたのかもしれない(以上、私見)。もちろん、このリストの曲は、印象派のラヴェル「水の戯れ, 1901」、ドビュッシー「水に映る影(水の反映), 1905」に引き継がれる。

フンメルも、もちろん神童で、8歳の時からモーツァルトの家に住み込み、ピアノ等を師事し、その後、ハイドンやサリエルにも学んだ。ハイドンの引退後は、エステルハーゼ公の宮廷楽長、1819年よりヴァイマルの宮

廷楽長となり、ゲーテと並ぶ名声を得た。

さて、1760年代後半から80年代前半は、秩序や理性よりも感情を重視する Sturm und Drang, 「疾風怒濤」の時代で、ゲーテ「若きウェルテルの悩み, 1774」やシラー「群盗, 1781」らにより推進されたこの潮流は、やがてロマン主義へと進展する。

ロマン主義音楽は、オペラにより典型的に表現される。ドイツ・オペラのロマン主義は、ヴェーバーの「魔弾の射手, 1821年初演」により確立された。

この初演を、ホフマン、ハイネや12歳の早熟の天才メンデルスゾーンも観ている。

メンデルスゾーンは同年、ゲーテの前で演奏している。

ロマン派のドイツ・オペラの主題は、幻想的、空想的、神秘的な物語や伝説であり、キーワードは、夜、闇、魔法、魔女、妖精、森、孤独、夢、情熱、苦悩などである。

メンデルスゾーンは、17歳で「真夏の夜の夢の序曲, 1826」を書き、38歳の若さで死んだ。

ベルリオーズは「幻想交響曲, 1830」を作曲した。

後年、ヴァーグナーは、伝説などを素材に、音楽と劇を壮大に融合させた「楽劇」を完成させる。

[3] リストの慈善活動, 他

現代、災害等に際して、音楽家が慈善活動を行う事は一般的であるが、その先駆的活動は、リストにより推進された。

(1) 1835年からリストは、雑誌Revue et Gazette musicale de Parisに、6回に亘り「芸術家の立ち位置と社会的身分に関して」と題する論文を連載し、芸術家の地位向上を訴えた。

リストは執筆活動も活発で、1837年だけでも、タールベルグ、アルカン、シューマンなどの作品に関する論文も書いている。

(3) 1839-40年には、ブダ、ペストで祖国の音楽学校、音楽協会、目の不自由な人達の為の演奏会を行った。

この時には、歴史に残る空前の大歓迎を受け、松明行列まで行われた。

リストは、ハンガリーの国民的英雄であり続け、1875年、ハンガリー国王（オーストリア皇帝）フランツ・ヨーゼフ1世の許可による、新設のハンガリー王立音楽院の総長となり、多くの名ピアニストを育てた。

(4) 1840年、ハンブルクでオーケストラ・メンバーの年金基金のための演奏会を開く。

なお、一人の演奏家のみで演奏会を開く、「リサイタル」は、1840年にリストが創始した。

(5) 1841年、ベルリンで歴史的な21回の演奏会を開いたが、9回は義捐演奏会で、膨大な演奏曲を暗譜で演奏したと言う。フリードリヒ・ヴィルヘルム皇帝は、ほぼ全ての演奏会に出席した（図16）。

(6) 1841年、ハンブルクで大火災が起ったが、5万5千フランの義捐金を贈った。

(7) 1851年、ドイツの芸術家達のレベルや生活向上目的で「ヴァイマルのゲーテ基金に関して」と題した、詳細かつ具体的内容の論文を発表。

(8) 1861年、音楽家の支援などを目的に、フランツ・ブレンデルと協力し、「全ドイツ

Berlin between 27 December 1841 and 3 March 1842, as recorded by Lina Ramann (see note 80):

First programme [27 December]: *Ouverture de l'opéra "Guillaume Tell"* (Rossini/Liszt), *Réminiscences de "Lucia di Lammermoor"* (Donizetti/Liszt), *Réminiscences de "Robert le Diable"* (Meyerbeer/Liszt), *Adelaide* (Beethoven/Liszt), *Chromatic Fantasy and Fugue in D minor* (Bach), *Erlkönig* (Schubert/Liszt), *Grand Galop chromatique* (Liszt).

Second programme [1 January]: *Sonata in C sharp minor ("Moonlight")* (Beethoven), *Grande Fantaisie sur des thèmes de l'opéra "Les Huguenots"* (Meyerbeer/Liszt), *Invitation to the Dance* (Weber), *Fugue in E minor, and Theme and Variations* (from D minor Suite) (Handel), *La Danza [Tarantella Napoletana]* from *Soirées musicales* (Rossini/Liszt), *Mazurkas* (Chopin), *Polonaise from I Puritani* (Bellini/Liszt), *Marche Héroïque dans le genre hongrois* (Liszt).

Third programme [5 January]: *Septet* (Hummel), *Aria by Pacini* sung by Luigi Pantaleoni, *Ständchen* and *Ave Maria* (Schubert/Liszt), *Rheinweinlied* from *Vierstimmige Männergesänge* (Liszt), *Prelude and Fugue in A minor* (Bach), *Grande Valse di Bravura* (Liszt).

Fourth programme [9 January]: *Élégie sur des motifs du Prince Louis Ferdinand de Prusse* (Liszt), *Réminiscences de "Don Juan"* (Mozart/Liszt), *Momento capriccioso* (Weber), *Studies* by Moscheles and Chopin, *Prelude and Fugue in E minor* (Bach), *Hexaméron Variations*.

Fifth programme [16 January]: *Scherzo, Storm and Finale* from Beethoven's "Pastoral" Symphony; *Fantaisie sur des motifs favoris de l'opéra "La sonnambula"* (Bellini/Liszt), *Ma-*

eppa (Liszt), *Sonata* and "Cat's Fugue" (Scarlatti), *Valse à capriccio* (Liszt).

Sixth programme [21 January]: *Konzertstück* (Weber), *Marche et cavatine de "Lucie de Lammermoor"* (Donizetti/Liszt), *Sonata in D minor* (Beethoven), *Lob der Thränen* (Schubert/Liszt), *Scherzo a capriccio in F sharp minor* (Mendelssohn), "Heil Dir im Siegerkranz" ("God Save the Queen") (Liszt).

Seventh programme [23 January]: *Réminiscences de "Don Juan"* (Mozart/Liszt), *Ständchen, Ave Maria* and *Erlkönig* (Schubert/Liszt), *Invitation to the Dance* (Weber), *Free improvisation on Russian National Anthem and Caspar's Drinking Song (Der Freischütz)*, *Réminiscences de "Robert le Diable"* (Meyerbeer/Liszt).

Eighth programme [30 January]: *Réminiscences des "Puritains"* (Bellini/Liszt), *Magyar dallók* (Liszt), *Sonata in F minor "Appassionata"* (Beethoven), *La campanella* and arrangement of *Carnaval de Venise* (Paganini/Liszt), *Prelude and Fugue in C sharp minor* (from *The Well-Tempered Clavier*), *La Serenata e L'Orgia* (Rossini/Liszt).

neral March from the "Eroica" Symphony (Beethoven/Liszt), *Sonata in A flat major* (Weber), *Réminiscences de "Norma"* (Bellini/Liszt), *Au Lac de Wallenstadt* (Liszt), *Au Bord d'une source* (Liszt), *Improvisation* on three themes.

Tenth programme [6 February]: *Sonata in A flat major ("Funeral March")* (Beethoven), *Réminiscences de "Lucrezia Borgia"* (Donizetti/Liszt), *La campanella* (Paganini/Liszt), *Scherzo and Fugue from the Sonata in B flat major (Hammerklavier)* (Beethoven).

Eleventh programme [25 January]: *Ouverture de l'opéra "Guillaume Tell"* (Rossini/Liszt), *Erlkönig* (Schubert/Liszt), *Invitation to the Dance* (Weber), *Agathe's Aria* arranged for piano (Kullak), *Grand Galop chromatique* (Liszt). Two of Liszt's songs for four-part chorus, *Rheinweinlied* and *Studentenlied* ("Es war eine Ratt' im Kellerloch"), were also performed at this concert.

Twelfth programme [4 February]: The performers included Pantaleoni and Zschiesche. Apart from a paraphrase of *Gaudeamus igitur*, the remainder of the programme is unknown. After the concert Liszt was driven back to his hotel by local students.

Thirteenth programme [10 February]: At this concert Liszt performed three pieces, including "Heil Dir im Siegerkranz." His remaining programme is unknown. Two of his quartets were sung, viz.: *Rheinweinlied* and *Das deutsche Vaterland*.

Fourteenth programme [16 February]: *Piano Concerto in E flat major* (Weber), *Hexaméron Variations*, *Réminiscences de "Don Juan"* (Mozart/Liszt), *Réminiscences de "Lucia di Lammermoor"* (Donizetti/Liszt), *Grand Galop chromatique* (Liszt). The orchestra performed the *Oberon* and *Leonore* Overtures; two vocal numbers from Bellini's *I Puritani* completed the programme.

Fifteenth programme [19 February]: *Overture to Gluck's Iphigénie en Aulide*, *Piano Concerto in E flat major ("Emperor")* (Beethoven), *Overture to Rossini's William Tell*, *Invitation to the Dance* (Weber), improvised encores, *Choral Fantasy* (Beethoven).

Sixteenth programme [23 February]: *Fantaisie sur des motifs favoris de l'opéra "La sonnambula"* (Bellini/Liszt), *Hexaméron Variations*, *Ständchen* (Schubert/Liszt), *Réminiscences de "Robert le Diable"* (Meyerbeer/Liszt), *Choral Fantasy* (Beethoven).

Seventeenth programme [2 March]: *Overture to Coriolan* (Beethoven), *Piano Concerto in C minor* (Beethoven), *Oberon's Zauberhorn* (Hummel), *Réminiscences de "Don Juan"* (Mozart/Liszt), *Ave Maria* and *Erlkönig* (Schubert/Liszt).

Eighteenth programme [late February]: ?

Nineteenth programme [late February]: ? *Grand Galop chromatique* (Liszt).

Twentieth programme [late February]: *Symphony No. 5 in C minor* (Beethoven), *Overture to Spontini's Olympia*, conducted by Liszt, Meyerbeer's *Le Moine*, accompanied by Liszt, &c.

Twenty-first programme [3 March]: ?

図16 ベルリンでの歴史的リサイタルのプログラム

10週間21回のリサイタルでの膨大な曲を全て暗譜で演奏
(Burger, E.: Franz List, Princeton Univ. Press, 1989より引用)

音楽協会」を設立。

- (9) 1871年、ピアノ演奏上の唯一のライバル、
タールベルグがナポリで亡くなった時には、
彼の彫像のための資金を贈った。
- (10) 1872年ブダで、74年ウィーンで、79年パ
ストで義捐演奏会を開く。
- (11) 1884年には、バッハの生誕地アイゼナッ
ハの、バッハ生誕200年記念碑建立に際し
て3000ターラを寄付している。

このようにリストは、終生、種々の目的の
慈善活動、社会活動に努めたが、同時代の音
楽家で、このように持続的活動をした者の話
は、聞かない。

[4] ボンのベートーヴェンの銅像建立と記念 演奏会

ベートーヴェン(1770-1827)の銅像建立に
於るリストの社会貢献は、最もよく知られた
エピソードである。

ベートーヴェンの生誕地ボンの楽聖生誕75
周年記念の像の建立は、多くの人々の希望で
あった。

記念碑のためのボン協会は、独、仏、英の
楽譜出版者など、各国に資金調達を依頼した。
掛け声は大きかったが、調達は難航した。

英では、ベートーヴェンの友人のスマート
卿、モシュレスらが、交響曲第9番の支援演
奏会を開いたが、観客は集まらなかった。

仏では、ケルビーニが演奏会を開こうとし
たが不成功。パリでは、リストはベルリオー
ズ指揮で、ピアノ協奏曲第5番「皇帝」の演
奏、ヴァイオリニストのマサールとの「クロ
イツェル・ソナタ」の共演等を行った。

然しながら、例えば1839年までの仏の寄付
は、僅か425フランであった。

これを知ったリストは、1840年の初めに個
人的に、1万フランを贈った他、資金の多く
を調達した。



図17 ボンのベートーヴェン像の除幕式、1845年
(Leipziger Allgemeine Zeitungの木版画、1845年)

像の除幕式は、1845年8月12日に決定した
が、式の最大のイベントである演奏会の会場
が、ボンには無い事が判明した。式典の開催
にまたもやピンチが生じた。

式典会場建設資金が集まらない事を知った
リストが、簡易ではあるが、3,000人収容の
会場の全建設費用を寄付するという事で、期
日ぎりぎり会場が完成したのである。

リストがいなければ、この計画はうまくい
かなかっただろうと言われている。

この式典のため、リストは「ボンのベートー
ヴェンの記念碑除幕式の為の祝典カンタータ
(ベートーヴェン・カンタータ)」を作曲。

シューマンは「フロレスタンとエウゼビオ
スによるベートーヴェン記念碑のためのピア
ノフォルテの為の大ソナタ」を作曲したが、
出版できなかった。

そこで修正し、1839年に「幻想曲八長調」
として、リストへの献辞を添えて、出版にこ
ぎつけた。これは、彼の代表作の一つになっ
た。リストは後年、その返礼に代表作「ピア
ノソナタ口短調」をシューマンに献呈した。

メンデルスゾーンも、よく知られるピアノ
の為の「厳格な変奏曲」を作曲した。

(つづく)